



三峰川の水で農業支える

江戸時代後期に水利事業で功績を残した伊東伝兵衛が手掛けたとされる五井の一つに、「鵜が鼻井筋」がある。伊那市の富県から東春近にかけての広い地域を三峰川の水で潤し、今も農業を支えている水路だ。県道沿いには水路改修記念碑と県営灌漑排水事業の業績が記された石碑が建ち、高

⑤ 伝兵衛五井

伊那市

伊那谷遺産 第1部

台からその井筋を見守っている。富県では「伝兵衛井」と呼ばれている。「この辺りの暮らしはみんなこの井筋のおかげ。これがないや、田んぼなんかできなんだ」と話すのは桜井城下の下平利康さん(89)。家の前には昭和20年代まで水車小屋があったといい、「大きな水

車が付いていて、井筋の水を使ってこの辺りでとれた米をひいていた。それもこれも伝兵衛さんのおかげだった」と語る。



毎週火曜日掲載

かつては小さな段差を落ちる水の音が家の中にも聞こえたという。県道幅でその場所も暗渠となり、水車小屋は跡形もない。

(文・倉田高志、絵・片桐美登)



QRコードからHPへ
QRコードからHPへ

平成25年7月30日 | 面

長野日報

朝・夕